秋田県立博物館の教育活動について

鎌田　重光

1. はじめに

当館の設立構想では、資料収集・整理保管・調査研究および教育活動を博物館の四つの機能として位置づけ、とくに教育活動については、展示理念を理解させることを基本とし、あわせて、不特定多数の大衆を対象とする生涯教育ならびに学校教育との関連を重視している。ほかに、移動博物館、利用者の組織、図書室・研究室の公開利用、講演会・映写会その他の視聴覚教育の開催、情報資料のセンターとしての活動、電波利用による博物館の教養放送、博物館の広報活動など10項目に大別して、県立博物館にふさわしい教育活動のあり方を述べている。これらの理念は一朝一夕にして実現できるものではないが、当館ではこれをうけて、後述の活動領域を設定し、暗中模索の一年が経過しようとしている。以下、秋田県立博物館の教育活動について、その概略を報告する。

2. 教育活動領域

教育活動の領域は、極めて広範囲にわたるが、当館では①展示解説案内、②博物館教室、③広報、④視聴覚器材や資料及び図書資料の管理運営、⑤その他、以上五つの領域を設定した。解説案内は、学芸課の研究部門担当職員と解説員が中心となる。解説員は、展示物の監視、入館者誘導も兼ねて解説案内を行う。専門的な解説というよりも、入館者に代って解説文を読んでやるとか、楽しく観覧できるための奉仕活動を心得とする。研究部門担当職員は、団体見学オリエンテーションや部門資料の専門的解説、同定、鑑定を行う。サービスコーナーは、いわば博物館の総合案内所であり、情報掲示板、投書箱、記念スタンプ、博物館刊行資料や参考書などもおく。

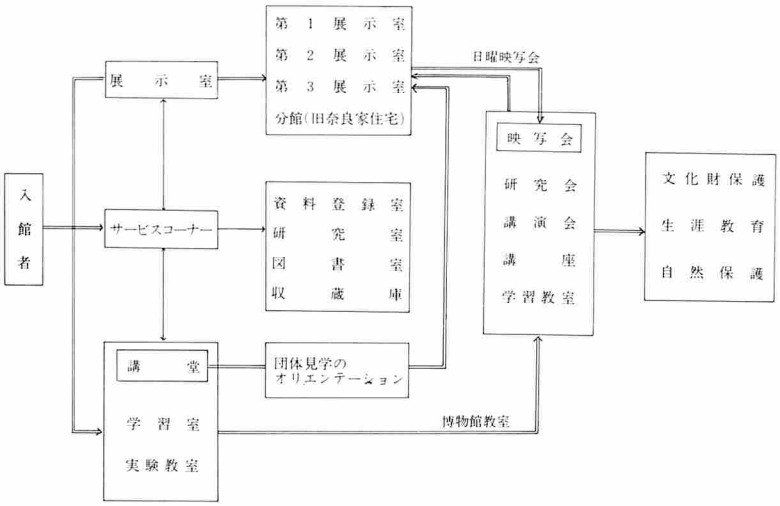
博物館教室は、展示解説案内と並ぶ当館の重要な教育活動領域である。これには、博物館が独自に

秋田県立博物館の教育活動領域

No.	1			2		3		4				5		
領域	展示解説案内			博物館教室		広報		視聴覚器材や資料及び図書資料の管理、運営				その他		
項目	解説員	学芸課職員	サービス・コーナー	企画学習	サービス学習	印刷出版	マスコミ	映写	撮影	録音	図書資料の収集、整理	博物館実習	外来研究者	博物館資料の貸出、取材許可
内容	展示資料解説、展示資料の整理保存、入館者の受付・案内 入館者への奉仕	団体見学オリエンテーション 部門資料の解説、同定、鑑定	総合案内、写真撮影許可、資料紹介、頒布、救急、諸連絡	博物館が独自に企画する学習会	申し込みにより、博物館が協力して行う学習会	展示解説資料、図録、研究紀要、博物館ニュース	報道関係機関の取材および執筆協力、行事案内依頼	16ミリ映写、OHP、スライド、テレビ	テレビカメラ	カセットオープン	購入 寄贈 新聞 ・ 切抜資料	学芸員資格取得希望者 博物館学実習希望者	資料提供、情報交換、共同研究	許可書発行 取材立合い
備考	第1展示室(2名)第2(1名)第3(1名)サービスコーナー(1名)	毎日2名 当番制	解説員1名常駐、部門担当職員	行事予定表				映写室 フィルム庫	写場 暗室	録音ミキサー室	図書室		外来者用 研究室	

行う企画学習と、申込みにより博物館が協力して行うサービス学習の二つがある。学習形態には、講演会・講座・研究会・学習会・実演会・映写会などがあり、双方とも単独か、二・三の組み合わせが考えられる。広報活動は、各種刊行物の作成や報道関係機関の取材および執筆協力、行事案内依頼などが主な内容である。視聴覚器材や資料及び図書資料の管理運営は他領域との関連から裏方的役割をもつが、とくに、博物館教室の映写会行事の推進役として、器材や資料の整備点検を忘れることができない。その他の領域として、博物館実習生、外来研究者の受入れや博物館資料の貸出、取材許可などがあるが、博物館が教育機関として、その役割を果し得るかどうかが評価される重要な領域である。以上五つの領域は、展示室・講堂・学習室・実験教室・サービスコーナーなど教育活動関連施設と有機的に結合しながら、入館者への働きかけを行うが、この結合パターンは多様であり、入館者の要望も取り入れながら、今後、いろいろな関係図が作られることになろう。

館内教育活動関係図



3. 教育活動の実態

(イ)展示解説案内

当館には6名の女子解説員がいるが、開館当初の配置は、本館の第1展示室2名、第2展示室1名、第3展示室1名、サービスコーナー1名、分館1名とした。ほかに、学芸課研究職員が当番制をとり、毎日2名ずつ解説案内を担当した。ところで、解説活動は、入館者の展示に対する理解を一層高めるための補助的機能として、きわめて重要ないとなみではあるが、5月開館から8月までは、本館だけでも一日平均 1,000人以上の入館者があり、本来の解説活動よりも、入館者誘導が中心にならざるを得なかった。あらかじめ申込みのあった団体の場合は、講堂において、「私は秋田県立博物館」という博物館の概略を集録した映画を見せ、さらに博物館見学の心得を伝えてから2階の展示室に誘導することにした。なお、身体障害者や老人学級の場合は、なるべくエレベーターを使った。当館は七部門総合の博物館で内容が豊富なこと、館内が非常に広いこと、それに、入館者が一般、団体とも、こどもから大人まで多様なだけに、時間配当や解説内容の度合が非常にむずかしいが、時間配当は1時間半を標準とし、解説内容は解説文の読解に主眼をおき、より専門的なことは、サービスコーナーに申し出てもらうことにした。他館では視聴覚装置や器材などにより展示解説を行うところもあるが、

これには長短の報告もあり、当館では今しばらく検討の時間を設けたい。11月以降は、開館時間の短縮、冬季間という自然条件が重なり、入館者は大きく減っているが、むしろこの時期こそ本来の解説活動ができるのではないかと心得ている。そのため、当初の勤務態様を少しずつ変えながら、解説員が活動の前面に立ち、研究職員の手伝い、解説実習や他館の見学を通し、解説員の資質の向上に努めている。解説案内をより充実させるためには、このほか、受付係、守衛、施設管理係との連携を密にすること、投書箱やマスコミにとりあげられた見学者の声にも耳をかたむけ、きめのこまかな解説案内を心掛ける必要を痛感した。

(ロ)博物館教室

開館以来、20万人以上の入館者を数えるが、なかには、博物館を単なる観光施設と考え、ながめて通り過ぎ、驚異性、珍奇性のみを求めて帰る入館者もみられたが、われわれの願いは、既存の教育機関の枠をのり越えた「楽しく学ぶ場」とすることにある。幸いにも、自分たちの手で郷土の自然や歴史について、積極的に学ぶ姿勢を示す入館者も多い。博物館教室はこれらの期待に応えて、広く県民に対し学習の場を提供し、博物館活動の日常化をめざしている。昭和50年度は以上の趣旨をふまえて10回の企画学習を計画し、現在まで7回の実施をみた。「菅江真澄を学ぶ会」は、秋田大学の内田ハチ先生による講演「菅江真澄の故郷と学問について」、映画「菅江真澄による男鹿八郎潟の自然と生活」、テーマ展示「真澄と秋田の風土」の解説案内が主な内容であったが、第一回の博物館教室としてはなかなかの好評であった。「昆虫、植物採集と標本製作指導」と「化石採集会」は、小中学校児童、生徒の自由研究の手伝いを兼ね、夏休みの自然観察指導を企画したものである。化石採集会は博物館側の貸切バスで男鹿市五里合安田海岸にでかけ、貝化石を観察採集し、標本製作指導もするということで、希望者が殺到し、断わるのに苦労した。また、実施後は化石に対する関心が高まり、何回か博物館に足を運んだり、立派な標本を学校に提出して、先生方からも好評を頂いた。実演会「猿倉人形芝居」と講演会「秋田藩における検地の諸問題」は、敬老の日、文化の日という無料公開の祝日をえらんで実施したものである。いずれも参加者が多く、博物館教室が徐々に軌道に乗って来たことを物語る結果となった。館外からの申込みにより博物館が協力して行うサービス学習は、学習形態、時間配当、館側の協力程度など、まだまだ検討の余地を残しているが、学校教育関係機関や社会教育団体の企画する研究会、研修会、学会、学習教室など15回以上も実施された。

昭和50年度　博物館教室一覧

月　日	名　称　(主　題)	対　象	会　場	摘　要	備考(参加者)
7月19日	菅江真澄を学ぶ会	高校生以上	講　堂	講演、映画、展示説明	70人
8月 1日	昆虫、植物採集と標本製作の指導	中・高校生	周辺の潟原		20人
8月 8日	化石採集会	小・中学生	男鹿半島	バス利用	50人
8月18日～19日	秋田のおいたちを学ぶ会	教　員	博物館男鹿半島	バス利用、現地宿泊	35人
9月15日	猿倉人形芝居実演会	一　般	講　堂	敬老の日(無料開館日)	220人
10月12日	秋田の歴史を学ぶ会	一　般	学習室	講義、展示説明	30人
11月 3日	秋田藩における検地の諸問題	一　般	講　堂	文化の日記念講演(無料開館日)	110人
1月	土器の文様について	小学生高学年以上	実験室	中止	
3月13日	秋田の古窯を学ぶ会	一　般	学習室	講義、展示説明、座談会	30人
3月27日	ワラ細工製作実演会	小学生高学年以上	分　館	実習	27人

(ハ)広報活動

博物館は、学術研究機関であると同時に教育普及機関であり、従って、広報活動も二つの性格をもつ。学術研究部門の広報は、年間の研究成果を報告書としてまとめるのが主なもので、研究部門別報告書や部門総合の報告書がこれである。今年は開館初年度でもあり、「秋田県立博物館の設立構想をどう受けとめて、どのように具体化したか」というテーマを巻頭論文とし、研究報告No.1を創刊することにした。教育普及に関する広報は、ニュース性、速報性が要求され、また博物館全体の活動にあわせて、弾力的に取組む必要があるだけに、編集に苦労する分野である。開館以来、博物館案内リーフレット、特別展、部門展リーフレット、博物館ニュースNo.1が発行されたが、現在企画編集中のものとしては、第1展示解説資料、博物館ニュースNo.2、博物館利用の手引がある。このほか、各種報道関係機関からの執筆や放送、出演依頼や当館からの行事案内広報が多く、あわただしい一年であった。

(ニ)視聴覚器材や資料及び図書資料の管理運営

映写室・フイルム庫・写場・暗室・録音ミキサー室・図書室などの施設と、16ミリ映写機・スライド・テレビ・OHP・テレビカメラ・カメラ・カセットおよびオープン録音機などの視聴覚器材、それに、映画フイルム、スライド、図書などの各種資料の管理運営であるが、実施したものとしては、講演会の録音集録、観察会の撮影、広報資料のDPE、図書資料のカード化、映写会がある。とくに映写会は、毎週日曜日、入館者に対して、午前、午後2回（冬季は1回）にわたって上映するもので、この分野の活動の重要な柱となった。現在フイルムは当館自作のもの、市販のものあわせて25本あり、それに、県ライブラリー、営林局、東北電力の協力を得て、年間47回の映写会を企画し、ほとんど予定通り実施された。この分野は、他領域との関連が深く、資料の充実と、担当者の創意工夫、技術向上が強く求められる分野だけに、博物館全体の動きの中で、常に検討を加えて行く必要がある。

(ホ)その他の活動

博物館実習や博物館学研究を目的とする外来者の受入れ体制は、まだほとんど確立されておらず、今年度は二、三の事例にとどまった。博物館活動が次第に定着するにつれて、この領域への関心も深くなると思われるが、その一つとして、学校教育や社会教育指導者が参加する博物館研修制度の企画を提案しておきたい。また、資格取得を目的とする博物館実習については、講座をもつ大学との連携が必要となる。博物館資料の貸出、取材許可のおもな内容は、展示資料、収蔵資料の写真撮影や他館の特別展開催にともなう一時貸出、資料引用許可などで、研究部門との連携において、教育活動担当者がその窓口となるものである。博物館が全国的に紹介されるにおよんで、この種の業務も意外に多く、学芸庶務の業務分担の上で再検討を要する事項であった。

化石採集会

教育活動の施設々備

名称	数	面積	収容人員	備考
講堂	1	260m²	250人	映写室（15m²）
学習室	1	74	40	
実験教室	1	97	48	実験台8
外来者用研究室	1	34	4	机、椅子
会議室	1	34	18	
サービスコーナー	1	40	—	参考図書240冊

4. 入館者統計について

昭和50年5月5日開館式典を挙げ、同月10日から一般公開を行ったが、辷り出し極めて好調であった。5月から翌年3月までの50年度入館者総数を、分館の「旧奈良邸」を含め10万人と予想していたものが、公開後2ヶ月足らずの7月6日早くもその数に達し、10月末では 208,000人をこえる状況であった。しかし、11月以降は、開館時間の30分短縮、冬季の悪天候が影響して、入館者数は横這い状態になっている。雪国の入館者数の予想は非常にむずかしく、今後の推移に関心があつまっている。月別では、5月から9月まで毎月2万人以上、一日平均 1,000人以上を記録した。とくに6月は5万5,000人余の入館者があり、ゆっくり見学できる状態ではなかった。年間を通じて、一般、団体の割合は、ほぼ半々であるが、6月7月は団体、8月は一般の入館者が目立つた。団体では学校関係、老人クラブ、婦人学級、PTAがとくに多く、全県的に分布する関連事業所が順番で来る例もあった。学校関係では、小、中、高とも、校数で全県の30%、生徒数で10%弱の入館者があった。地域的には、博物館から60㎞圏内に集中し、大曲、仙北地区の学校が比較的多かった。10月～11月実施の一般入館者動向調査によれば、秋田市38%、南秋田郡11%、県外14%であった。なお、今年度の無料公開日（8月29日県の記念日、9月15日敬老の日、11月3日文化の日）の入館者数は、合計 8,249人であった。

5. おわりに

秋田県立博物館の教育活動について、活動領域、活動の実態、入館者統計の順にその概略を報告した。教育活動の基本項目は、設立構想の中に明示されているが、施設、組織、予算それに県民の要請など可変的要素を考慮しながら、本館独自のあるべき姿を模索しなければならない。活動領域と関係図の設定もこれで十分だとは思われない。とくに、総務課と学芸課、学芸課内の研究部門と教育普及部門との関連については反省される点が多かった。また、入館者数の多少に一喜一憂するのではなく、博物館の意義を一人でも多くの県民に理解して頂くことが教育活動の重要な使命であり、今後なお一層、展示の工夫、資料の充実、博物館教室の徹底、学校や市町村との関連強化などに取組む必要がある。真の意味の教育活動はこれからはじまろうとしている。そのためには、博物館の一人相撲では事は進まないし、県民多数のご協力とご批判を賜われば幸甚である。

参考文献

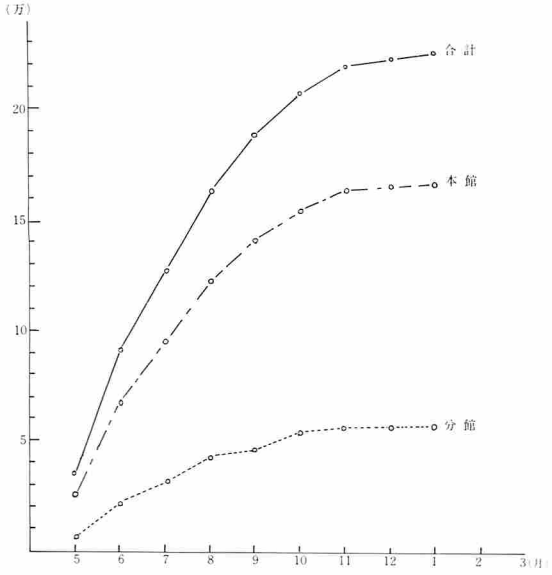
1. 秋田県立博物館　設立構想　1972. 3
2. 北海道開拓記念館の教育活動について
   博物館研究第45巻 第1号
3. 博物館の教育活動
   日本博物館協会 1970～1971年の事例
4. 博物館研究　Vol. 10　No.2.3 日本博物館協会
   大阪市立自然史博物館特集
5. 博物館学紀要　第1輯　1968　国学院大学

付表及付図

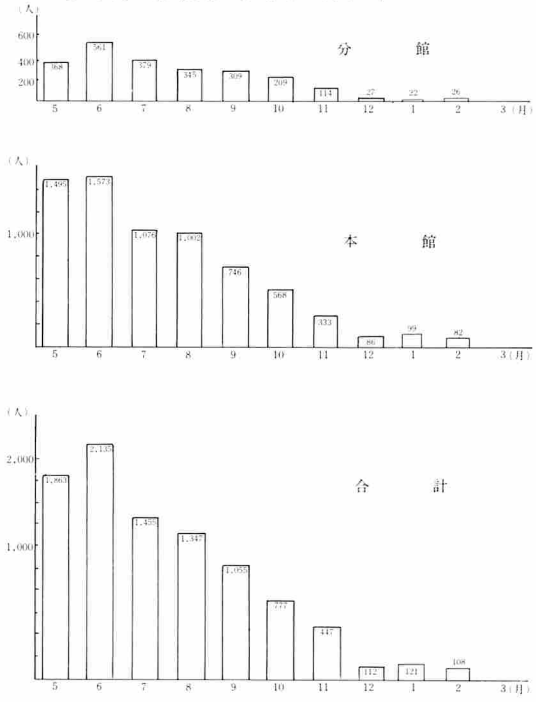
◎ 月別入館者数

	本館			分館			合計			累計
	一般	団体	小計	一般	団体	小計	一般	団体	合計	
5 月	14,634	13,768	28,402	4,740	2,255	6,995	19,374	16,023	35,397	35,397
6 月	17,729	23,181	40,910	6,855	7,740	14,595	24,584	30,921	55,505	90,902
7 月	12,361	15,622	27,983	5,164	4,680	9,844	17,525	20,302	37,827	128,729
8 月	18,536	7,506	26,042	7,570	1,399	8,969	26,106	8,905	35,011	163,740
9 月	8,860	9,033	17,893	3,615	3,812	7,427	12,475	12,845	25,320	189,060
10 月	7,210	6,988	14,198	3,287	1,941	5,228	10,497	8,929	19,426	208,486
11 月	5,278	2,713	7,991	1,889	836	2,725	7,167	3,549	10,716	219,202
12 月	1,406	570	1,976	489	121	610	1,895	691	2,586	221,788
1 月	1,985	391	2,376	471	66	537	2,456	457	2,913	224,701
2 月	1,824	143	1,967	534	83	617	2,358	226	2,584	227,285
3 月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

◎入館者総数の推移



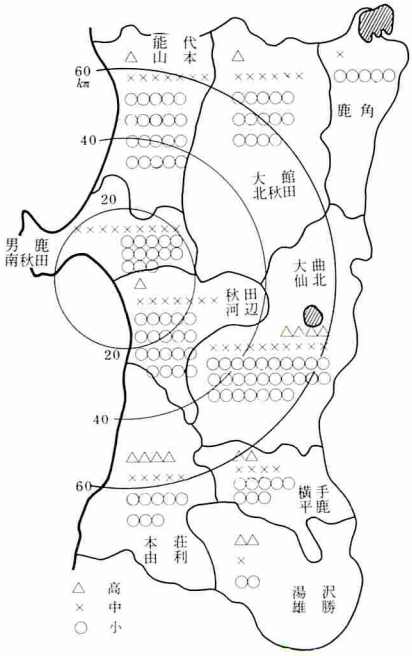
◎月別入館者数の推移(一日平均)



●地域別学校団体入館状況

学校／地域	高等学校				中学校				小学校			
	a 校数	b 人数	a／地域校数	b／地域生徒	a 校数	b 人数	a／地域校数	b／地域生徒	a 校数	b 人数	a／地域校数	b／地域生徒
鹿角・鹿角	0	0	0 %	0 %	1	31	14 %	1 %	5	440	31 %	8 %
大館・北秋田	1	29	10	0.4	6	891	29	11	14	764	23	6
能代・山本	1	43	16	0.8	7	1442	44	24	20	1489	50	13
男鹿・南秋田	0	0	0	0	9	1401	47	24	13	919	36	9
秋田・河辺	5	1123	36	6.4	7	1407	35	12	19	2200	41	9
本荘・由利	4	267	80	5.1	5	620	21	10	8	719	16	7
大曲・仙北	4	1523	50	20.0	10	1699	37	20	27	1910	42	14
横手・平鹿	2	215	29	3.4	4	716	29	12	8	447	17	4
湯沢・雄勝	2	420	50	10.0	1	97	6	2	2	116	4	1
計	19	3620	32	6.1	50	8304	30	14	116	9004	29	8

(註)　秋田高専 134　秋田大 105　国学院大 30　仙台第三高 358
青森横磯小 50　青森舳作小 42



◎ 入館校数分布図

◎ 月別、種類別入館団体数

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校（各種学校含む）	121	76	19	5	27	27	6	3	2	0	—
老人クラブ	17	58	34	10	23	15	8	2	0	0	—
婦人学級	3	78	47	14	19	11	7	2	0	0	—
こども会 親子会	1	11	17	20	5	4	4	1	6	0	—
町内会 部落会	6	24	11	7	5	5	2	1	2	0	—
公民館	2	8	8	3	8	2	5	0	0	0	—
PTA	0	64	32	10	20	7	4	1	0	0	—
その他	45	202	142	128	91	69	47	11	2	16	—
合計	195	521	310	197	198	140	83	21	12	16	—